

## 2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	准教授	白井 克尚
最終学歴	学 位	専門分野
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科	博士 (学校教育学)	社会科教育, 生活科教育

### I 教育活動

#### ○目標・計画

(目標) 地域の教育諸機関と連携したサービス・ラーニングを通じた活動を通して、学生主体の問題解決型の学習を組織し、総合的な企画力・調整力の育成をめざす。また、保育者、小学校教員として必要な実践力、表現力の育成をめざした教育方法の実践に積極的に取り組んでいく。

(計画) 講義・演習ともに、学生の興味・関心を大切にし、個々の問題意識にもとづいた研究活動を指導する。また、これまでのサービス・ラーニングの実践を通じて、経験を通じた学習の検証を行い、さらに対話的で深い学びにつながるような手立てを行っていきたい。さらに、小学校教育実習担当、教職支援センターの運営委員として、小学校教育実習、小学校教員採用受験のサポートに引き続き取り組み、教職を志望する学生を支援する取り組みを進めていきたい。

#### ○担当科目 (前期・後期)

(前期) 社会、教育実習Ⅱ事前事後指導、サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、教育実習Ⅱ (小学校)

(後期) 生活科教育法、社会科教育法、教職実践演習 (幼・小)、サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

#### ○教育方法の実践

教育方法の実践として、「教育実習Ⅱ (小学校)」「教育実習Ⅱ事前事後指導」の授業において、教職の意義についてのゲストスピーチや模擬授業などの活動を取り入れて、小学校現場経験を踏まえた指導を行うことができた。「教職実践演習 (幼・小)」の授業において、各グループのテーマに基づいたプロジェクト型の調べ学習や模擬授業を行い、四年間の学修の振り返りを行った。また、専門科目では、「社会」の授業において、名東区まちたんけんの活動を行い、地域における教材研究について体験を通じて考えさせることができた。「社会科教育法」の授業において、模擬授業を通じて、学生たちに小学校現場を想定した社会科授業運営のあり方について考えさせることができた。「生活科教育法」の授業では、平和公園たんけんを通じて、身近な環境からの教材づくりについて考えさせることができた。「基礎演習Ⅰ」の授業において、劇団うりんこの川原美奈子氏をゲスト・スピーカーとして招聘し、人間関係育成のワークショップを実施することができた。「総合演習Ⅱ」の授業において、同川原氏より、保育実習・教育実習を控える学生たちに対して、現場で活用できるアクティビティを教えていただくことができた。「サー

ビス・ラーニング実習Ⅰ」「サービス・ラーニング実習Ⅱ」の授業において、名東区内小学校、保育園、幼稚園、名東文化小劇場や名東図書館と連携し、サービス・ラーニング実習をサポートすることができた。

#### ○作成した教科書・教材

授業の内容理解を促すために、自作プリントや、スライド資料、映像教材を編集、作成した。名東区内諸機関との連携に向けた『サービス・ラーニングハンドブック（第6版）』をサービス・ラーニング委員会との共同で編集・刊行した。

#### ○自己評価

教育活動に関する自己評価として、実習科目に重点的に取り組んだことがある。とりわけ、「教育実習Ⅱ（小学校）」「教育実習Ⅱ事前事後指導」の授業において、小学校教育実習関係の連絡・調整を意識的に取り組み、学生の小学校教実習経験をサポートできた。「サービス・ラーニング実習Ⅰ・Ⅱ」の授業において、地域や学内外での様々な行事や活動に、学生を積極的に参加させることができた。また、講義科目では、パワーポイントを活用したり、DVDなど視覚に訴える教材提示を行ったりして、学生の興味を惹きつけることができた。さらに、演習科目では、学生の問題意識を引き出し、個人やグループでの追究テーマに基づいた探究型の学習活動を行うことができた。協同的な活動を通して、学生同士の交流も深まったことが評価できる。

## Ⅱ 研究活動

#### ○研究課題

校内授業研究に基づく社会科・生活科の授業づくりに関する基礎的研究

#### ○目標・計画

（目標）本研究は、問題解決学習を創出した社会科授業研究に関して、愛知県東三河地方における社会科授業研究を事例として、資料分析及び質問紙調査を通じて、その実態を解明することをめざす。

（計画）校内授業研究に基づく社会科・生活科の授業づくりに関して、愛知県東三河地方における事例に基づき、資料収集及び分析を行う。社会科の授業研究に関する事例として、新城市立新城小学校が構築した「授業研究システム」がある。新城小学校の「授業研究システム」が、その後の社会科授業づくりに与えたインパクトについて、資料分析によりその実態を解明することをめざす。また、生活科の授業づくりに関して、愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の開発研究の事例がある。校内授業研究の視点から、その意義を明らかにしたい。

#### ○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

##### （著書）

- ・単著『戦後日本の郷土教育実践に関する歴史的研究—生活綴方とフィールド・ワークの結びつき—』唯学書房,2020年3月
- ・共著：担当部分「5章 社会科の学習指導の方法を探る 4節 社会科における野外観察・地域調査」原田智仁編著『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて—』教育出版,2020年1月, pp. 97-100

- ・共著：担当部分「第6章 公民教育における学習指導の工夫 4 討論授業の組織化」日本公民教育学会『新版 テキストブック公民教育』第一学習社, 2019年12月, pp. 223-225
- ・共著：担当部分「第1章 中学歴史「見方・考え方」を育てる授業デザイン 2 「見方・考え方」を育てる見学・調査活動をどう実現するかー博物館・郷土資料館との連携による授業へのヒントー」土屋武志編著『「見方・考え方」を育てる中学歴史授業モデル』明治図書, 2019年9月, pp. 16-21
- ・共著：担当部分「第3章 小学校の授業参観とサービス・ラーニング」 pp. 27-37 「第9章 サービス・ラーニング実習におけるリフレクション」 pp. 95-110 愛知東邦大学地域創造研究所編『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』唯学書房, 2019年2月
- ・単著『子どもの思いや気づきを生かす生活科の授業づくりー新教科創設期の実践に学ぶー』（平成27(2015)年度～平成29(2017)年度 JSPS 科研費 若手研究 (B) 課題番号 15K17411 研究成果報告書) 三恵社, 2018年3月, 全70頁
- ・共著：担当部分「5章 社会科の学習指導の方法を探る 4節 社会科における野外観察・地域調査」原田智仁編著『社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー〔第2版〕』保育出版社, 2018年3月, pp. 97-100
- ・共著：担当部分「社会科における野外観察・地域調査」原田智仁編著『社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー』保育出版社, 2016年4月, pp. 97-100
- ・共著：担当部分「過去の解釈型歴史学習実践に学ぶー山本典人実践と加藤公明実践よりー」土屋武志・岡崎市社会科研究会編著『実践から学ぶ解釈型歴史学習ー子どもが考える歴史学習へのアプローチ』梓出版社, 2015年3月, pp. 26-38

(学術論文)

- ・白井克尚・行田臣「生活科において問題解決学習を実現した教師の「学習材研究」の実際ー愛知教育大学附属岡崎小学校における白井博司実践を事例としてー」日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』第27号, 2020年3月, pp.40-51 (査読有り)
- ・白井克尚・原田三朗「子どもの思いや気づきを生かす生活科教師の実践的知識に関する研究ー原田三朗実践を事例としたライフストーリーー分析を通じてー」愛知教育大学生活科教育講座『生活科・総合的学習研究』第16号, 2019年12月, pp.21-30 (査読無し)
- ・Katsuhisa Shirai : Characteristics of Industrial Learning in Japanese Elementary School Social Studies : In the case of the fifth grade “Showdown, Which Manufacturing Show!” *The Indonesian Journal of Social Studies* Vol.2(2), 2019年12月, pp. 102 - 113 (査読有り)
- ・白井克尚「1950年代後半の戦後郷土教育運動における渋谷忠男実践「世界地理の学習」の特質ー単元「中国のダム」と単元「ヒマラヤの山」を事例としてー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第31号, 2019年12月, pp.21-30 (査読有り)
- ・Katsuhisa Shirai : Lesson Study to Create Social Studies Lesson Plans in Japan: The Case of“Logic of Triple-Stacking” at Shinshiro Elementary School. *Journal of Social Studies Education in Asia*, Vol.8 (2019), 2019年10月 pp.15-25(査読有り)

- ・白井 克尚, 松本 卓也「小学校社会科における地域教材を生かした防災教育の授業構成と実践分析—第5学年単元「学校・学区の歴史から学ぶ防災学習」の場合—」愛知東邦大学『東邦学誌』第48巻1号, 2019年6月, pp. 1-14 (査読無し)
- ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐「生活科カリキュラムにおける教科論の変容とその社会的背景—子どもの生活環境としての「家庭」に注目して—」初等教育カリキュラム学会『初等教育カリキュラム研究』第7号, 2019年3月, pp. 97-109 (査読有り)
- ・Katsuhisa Shirai: Characteristics of Social Studies Lesson Study in Mikawa Area, Aichi Prefecture, Japan: The Case of 6th Grade “I want to know more about the nearest country, Korea!” *The Indonesian Journal of Social Studies* Vol 1(2), 2018年12月 pp.108-117 (査読有り)
- ・白井克尚「問題解決学習を創出した社会科授業研究の論理と実際—愛知県新城市立新城小学校の授業研究システムを手がかりに—」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第135号, 2018年12月, pp. 27-39 (査読有り)
- ・白井克尚・行田臣「主体的・対話的で深い学びを実現した総合的学習の時間のカリキュラム・マネジメントに関する事例研究—小3『詩のボクシング』の実践の検証を通じて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第47巻1号, 2018年6月, pp. 19-36 (査読無し)
- ・白井克尚「新教科創設期における生活科の授業づくりに関する研究—愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の開発研究を事例として—」日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』第40巻4号, 2018年3月, pp. 1-11 (査読有り)
- ・白井克尚「新教科創設期における生活科のカリキュラム開発に関する研究—愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の『単元指導計画』の作成過程を中心に—」愛知東邦大学『東邦学誌』第46巻2号, 2017年12月, pp. 47-67 (査読無し)
- ・白井克尚「『伝統と文化』に関する総合的学習の意義についての一考察—地域の伝統芸能を生かした実践の検証を通じて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第46巻1号, 2017年6月, pp. 1-16 (査読無し)
- ・白井克尚「『新しい郷土教育』実践史研究の課題と方法—教師のライフヒストリー・アプローチを手がかりに—」兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究科『教育実践学論集創立20周年記念特別号』2017年2月, pp. S41-S48 (査読無し)
- ・白井克尚・伊奈和彦・鶴飼雅弘・成瀬友弘・尾崎綾亮・佐藤公保「大学における地域の埋蔵文化財を活用した体験型歴史学習のプログラム開発—愛知県埋蔵文化財調査センターとの連携を通して—」愛知東邦大学『東邦学誌』第45巻2号, 2016年12月, pp. 129-143 (査読無し)
- ・白井克尚「大学における地域の歴史遺産を活用したNIE実践の開発—ピースあいちとの連携を通して—」愛知東邦大学『東邦学誌』第45巻1号, 2016年6月, pp. 111-123 (査読無し)
- ・白井克尚「1950年代前半における郷土のフィールド・ワークを活用した社会科授業づくりに関する考察—東京都世田谷区東玉川小学校の福田和による『新しい郷土教育』実践を事例として—」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第126号, 2015年12月, pp. 27-37 (査読有り)

- ・今津孝次郎・新實広記・西崎有多子・柿原聖治・伊藤龍仁・白井克尚「保育士と教員の養成における『サービス・ラーニング』の試み」愛知東邦大学『東邦学誌』第44巻第1号, 2015年6月, pp. 211-232 (査読無し)
- ・白井克尚「1950年代前半における『新しい郷土教育』実践の創造過程に関する歴史的研究—郷土教育全国連絡協議会の教師たちの取り組みを中心に—」博士学位論文, 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科, 2015年1月、全
- ・白井克尚「1950年代前半における『新しい郷土教育』実践の創造課程に関する一考察—郷土教育全国連絡協議会の『理論』と『実践』の関わりに焦点を当てて—」愛知東邦大学『東邦学誌』第43巻第2号, 2014年12月, pp. 59-76 (査読無し)
- ・白井克尚「1950年代前半における戦後の郷土教育運動の地域的展開—岡山県・月の輪古墳発掘運動の中の教育実践に着目して—」兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究科『教育実践学論集』No. 15, 2014年3月, pp. 67-78 (査読有り)
- ・白井克尚「相川日出雄による郷土史中心の小学校社会科授業づくり—『新しい地歴教育』実践の創造過程における農村青年教師としての経験と意味—」全国社会科教育学会『社会科研究』No. 79, 2013年11月, pp. 13-24 (査読有り)
- ・白井克尚「1950年代の中学校における郷土教育実践の特質に関する一考察—愛知県知多郡横須賀中学校の杉崎章の取り組みに即して—」日本学校教育学会『学校教育研究』No. 28, 2013年7月, pp. 97-108 (査読有り)
- ・白井克尚「社会科教員の専門性形成に『考古学』を活かす—愛知県埋蔵文化財調査センターとの連携を通して—」愛知教育大学社会科教育学会『探究』No. 24, 2013年3月, pp. 24-31 (査読無し)
- ・白井克尚「相川日出雄のライフヒストリー研究—小学校社会科としての専門性形成に焦点を当てて—」歴史教育史研究会『歴史教育史研究』No. 10, 2012年12月, pp. 25-47 (査読無し)

(学会発表)

- ・岡田了祐, 白井克尚, 村井大介, 渡邊巧「社会科に関わる民間教育団体はいかに生活科の成立に向き合ったのか—団体刊行物から捉えるもう一つの生活科成立史—」日本教科教育学会 第45回全国大会、愛知教育大学, 2019年10月13日, 『日本教科教育学会 第45回 大会発表要旨』p. 133
- ・山下大喜, 白井克尚, 土屋武志「社会科授業研究を中核とした校内授業研究体制の構築」日本教科教育学会 第45回全国大会、愛知教育大学, 2019年10月13日, 『日本教科教育学会 第45回 大会発表要旨』p. 133
- ・白井克尚, 山下大喜「複線型の授業構想を可能にした校内授業研究体制づくり—愛知県新城市立新城小学校における渥美利夫の果たした役割—」日本教育方法学会 第55回大会、東海学園大学, 2019年9月29日, 『日本教育方法学会 第55回 大会発表要旨』p. 133
- ・松本卓也, 白井克尚「地域教材を活用した小学校社会科における防災教育—第5学年「学校・学区の歴史から学ぶ防災学習」を例に—」日本社会科教育学会 第69回全国大会、新潟大学, 2019年9月14日, 『日本社会科教育学会 全国大会発表論文集』第15号, pp. 146-147
- ・白井克尚, 行田臣「探究的な学びをつくる生活科教員に必要な教材開発力に関する研究—愛知教育大学附属岡崎小学校時代の白井博司による生活科実践を事例として

- 一」日本生活科・総合的学習教育学会 第 28 回全国大会 大分大会, 佐伯市立鶴谷中学校, 2019 年 6 月 15 日, 『日本生活科・総合的学習教育学会 第 28 回全国大会 大分大会』P. 154
- ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐「社会科の専門家たちは, いかに関生活科の構想・発展に取り組んできたのか—成立期における議論とその構造に注目して—」兵庫教育大学, 加東市, 社会系教科教育学会, 第 30 会研究発表大会, 2019 年 2 月 10 日)
  - ・白井克尚「戦後の郷土教育運動における「地理教育」の展開—渋谷忠男の「世界地理の学習」に焦点を当てて—」(兵庫教育大学, 加東市, 社会系教科教育学会, 第 30 会研究発表大会, 2019 年 2 月 9 日)
  - ・渡邊巧・岡田了祐・白井克尚・村井大介「中野重人はいかに関生活科の構想・発展に取り組んできたのか—生活科教育の具体化とその過程—」初等教育カリキュラム学会, 第 3 回大会 (第 4 会場), 広島大学 2019 年 1 月 6 日
  - ・白井克尚「問題解決学習を創出した社会科授業研究の論理と方法—愛知県新城市立新城小学校の「授業研究システム」を手がかりに—」日本社会科教育学会 第 68 回全国研究大会 (奈良教育大学, 奈良市) 2018 年 11 月 3 日 『日本社会科教育学会 全国大会発表論文集』第 14 号, pp. 38-39
  - ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐・永田忠道「(自由企画型フォーラム)社会科の専門家たちは, いかに関生活科の構想・発展に取り組んできたのか—各地域における授業論の語りと実際より—」全国社会科教育学会 第 67 回全国研究大会 (山梨大学, 甲府市) 2018 年 10 月 20 日 『全国社会科教育学会 第 67 回全国研究大会 発表要旨集録』p. 51
  - ・渡邊巧・白井克尚・村井大介・岡田了祐「生活科カリキュラムにおける教科論の変容とその社会的背景—子どもの生活環境としての「家庭」に注目して—」日本教科教育学会 第 44 回全国大会 (日本体育大学世田谷キャンパス, 東京都世田谷区) 2018 年 9 月 8 日 『日本教科教育学会全国大会論文集』44, pp. 20-21
  - ・白井克尚・行田臣「主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントに関する事例研究—小 3 「詩のボクシング」の実践の検証を通じて—」日本生活科・総合的学習教育学会 第 26 回全国大会 (札幌市) 2017 年 6 月 16 日 『日本生活科・総合的学習教育学会 第 26 回全国大会 北海道大会』p. 243
  - ・白井克尚「地域における多文化共生社会を理解する教員・保育士養成の実践—教育学部ゼミでのフィールド・ワークを通じて—」第 56 回 愛知県世界史教育研究会, 2018 年 3 月 31 日 (愛知大学笹島キャンパス, 名古屋市)
  - ・Katsuhisa Shirai: Research on Lesson Study for the Curriculum Development of Life Environment Studies During Establishment as a New Subject in Japan, World Association of Lesson Studies(WALS) International Conference 2017 26 November 2017, Nagoya University, Japan, Abstract Number: 20110
  - ・白井克尚「愛知県東三河地域における社会科授業研究の系譜に関する—考察—新城市立新城小学校の「授業研究システム」を事例として—」全国社会科教育学会 第 66 回全国研究大会 (広島大学, 東広島市) 『全国社会科教育学会 第 66 回全国研究大会 発表要旨集録』p. 82
  - ・白井克尚・原田三朗「小学校教師における生活科授業像の形成過程とその要因—新教科創設期に焦点を当てたライフヒストリー的アプローチを通して—」日本生活

科・総合的学習教育学会 第25回全国大会（豊島区立西池袋中学校, 東京都）

2017年6月17日 『日本生活科・総合的学習教育学会 第26回全国大会 東京大会』 p.116

- ・白井克尚（招待）「地元埋蔵文化財を活用した体験型歴史学習-ハンズオン-」第2回インタラクティブ・ティーチング中部研究会, 2017年5月27日（名古屋大学教育学部, 名古屋市）
- ・白井克尚（ポスター）「新教科創設期(1989-1991)における生活科の授業づくり—愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の取り組みに焦点を当てて—」ほのくに生活科・総合的学習研究会, 2017年2月（Book Café Nido, 豊川市）
- ・白井克尚「1950年代後半における郷土をふまえて考える小学校社会科教育実践に関する考察—渋谷忠男による「世界の地理」学習を対象として—」全国社会科教育学会 第65回全国研究大会, 社会系教科教育学会 第28回研究発表大会 合同研究大会, 2016年10月（兵庫教育大学, 加東市）
- ・白井克尚「新教科創設期における生活科に関する研究推進校の授業づくりに関する—考察—愛知県宝飯郡御津町立御津南部小学校の取り組みを事例として—」日本学校教育学会 第30回研究大会, 2016年8月（名古屋市立大学, 名古屋市）
- ・白井克尚「新教科創設期における生活科授業づくり—研究推進校の校内授業研究会を事例として—」日本生活科・総合的学習教育学会 第25回全国大会, 2016年6月（宮城学院女子大学, 仙台市）
- ・白井克尚「1950年代前半における郷土のフィールド・ワークを活用した社会科授業づくりに関する考察—東京都世田谷区東玉川小学校の福田和による「新しい郷土教育」実践を事例として—」愛知教育大学歴史学会, 2015年12月（愛知教育大学, 刈谷市）
- ・白井克尚「愛知県三河地方における戦後生活綴方運動の地域的展開—愛知作文教育者協議会の結成と解散をめぐって—」教育史学会第61回大会, 2015年10月（宮城教育大学, 仙台市）
- ・白井克尚「1950年代前半における『新しい郷土教育』実践の創造過程に関する検討—郷土教育全国連絡協議会の『理論』と『実践』の関わりに焦点を当てて—」日本社会科教育学会第63回大会, 2014年11月（静岡大学, 静岡市）
- ・白井克尚「1950年代前半における東京都の郷土教育実践の特質について—東玉川小学校の福田和による社会科授業実践の分析を通して—」社会系教科教育学会第25回研究発表大会, 2014年2月（大阪教育大学, 柏原市）
- ・白井克尚「桑原正雄による社会科教育論の構築過程—1950年代前半における郷土のフィールド・ワークの経験に関わって—」全国社会科教育学会第62回大会, 2013年11月（山口大学, 山口市）
- ・白井克尚「1950年代前半における戦後の郷土教育運動の地域的展開—岡山県・月の輪古墳発掘運動の中の教育実践に着目して—」日本学校教育学会第28回大会, 2013年7月（鳴門教育大学, 鳴門市）
- ・白井克尚「1950年代前半における小学校社会科教師の力量形成—相川日出雄の個人史研究を通して—」全国社会科教育学会第61回大会, 2012年10月（岐阜大学, 岐阜市）

- ・白井克尚「相川日出雄のライフヒストリー研究—小学校社会科教師としての専門性形成に焦点を当てて—」歴史教育史研究会第8回例会, 2012年10月(岐阜市文化センター, 岐阜市)
- ・白井克尚「1950年代前半における郷土教育運動が社会科教師教育に果たした役割—『青いリンゴの運動』に着目して—」日本社会科教育学会第62回大会, 2012年9月(東京学芸大学, 小金井市)
- ・白井克尚「1950年代前半における小学校社会科教師の専門性形成について—相川日出雄の場合—」日本学校教育学会第27回大会, 2012年7月(武蔵大学, 東京都練馬区)

(特許) 特記事項なし

(その他)

- ・白井克尚「教員養成における主体的・対話的で深い学びの実践研究部会」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No. 25, 2020年3月, p. 3
- ・白井克尚「教員と保育士の養成における『サービス・ラーニング』の実践研究部会」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No. 24, 2019年3月, p. 2
- ・白井克尚「郷土教育への関心の現在地」郷土教育全国協議会『郷土教育』第713号, pp. 2-3, 2018年12月
- ・白井克尚・長坂康代「地域における多文化共生社会を理解する教員・保育士養成の実践—教育学部ゼミでのフィールド・ワークを通じて—」愛知県世界史教育研究会『世界史教育研究』第4号, pp. 101-108, 2018年6月
- ・白井克尚「「アクティブ・ラーニングの視点を問う—小・中・高・大学で『主体的・対話的で深い学び』を育むために—」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No. 23, 2018年3月, pp. 4-5
- ・白井克尚「敬慕 黒川知文先生～生涯につながるご縁～」愛知教育大学歴史学会『歴史研究』第64号, 2018年3月, pp. 191-193
- ・白井克尚「愛知東邦大学における『ピースあいち』と連携した教育活動」『ピースあいち メールマガジン』Vol. 81, 2016年8月, p. 8
- ・白井克尚「教員と保育士の養成における『サービス・ラーニング』の実践研究部会」『愛知東邦大学地域創造研究所所報』No. 21, 2016年3月, p. 2
- ・白井克尚「情報読解力を育てるNIE学習」『社会科教育』明治図書, No. 663, 2014年7月, p. 7
- ・白井克尚「社会科授業で法的資質・能力を育む」『社会科教育』明治図書, No. 648, 2013年4月, p. 105
- ・白井克尚「6年『縄文から古墳へ』=この発問→こう知覚化」『社会科教育』明治図書, No. 641, 2012年9月, p. 62
- ・白井克尚「6年『天皇中心の国づくり』=この発問→こう知覚化」『社会科教育』明治図書, No. 641, 2012年9月, p. 63
- ・白井克尚「知っているようで知らない問題でQづくり」『社会科教育』明治図書, No. 637, 2012年5月, pp. 42-43

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・愛知東邦大学地域創造研究所: 教員養成における主体的・対話的で深い学びの実践研究

研究期間：2018年4月-2020年3月 代表者：白井 克尚（研究分担者：今津孝次郎、西崎有多子、柿原聖治、伊藤数馬、橋村晴美、丹下悠史、水野正朗）

#### ○所属学会

日本社会科教育学会会員（平成11年4月～）  
全国社会科教育学会会員（平成11年4月～）  
愛知教育大学歴史学会会員（平成12年4月～）  
日本生活科・総合的学習学会会員（平成12年4月～）  
日本グローバル教育学会会員（平成12年4月～）  
日本教師教育学会会員（平成23年4月～）  
日本学校教育学会会員（平成24年4月～）  
社会系教科教育学会会員（平成24年4月～）  
教育史学会会員（平成24年4月～）  
日本教育方法学会会員（平成27年4月～）  
日本カリキュラム学会会員（平成27年6月～）  
日本教科教育学会会員（平成28年4月～）  
日本公民教育学会会員（平成29年4月～）  
社会科の初志をつらぬく会会員（平成29年4月～）  
日本国際理解教育学会会員（平成30年10月～）

#### ○自己評価

研究活動に関する自己評価として、個人研究では、愛知東邦大学出版助成を受けて、博士論文研究を単著として出版できたことが大きな成果である。この場を借りて感謝申し上げたい。また、研究目標・計画に基づいて、四本の査読付き論文を刊行できた。とりわけ、国際学術雑誌に、Katsuhisa Shirai : Lesson Study to Create Social Studies Lesson Plans in Japan: The Case of “Logic of Triple-Stacking” at Shinshiro Elementary School. *Journal of Social Studies Education in Asia*, Vol.8 (2019), 2019年10月 pp.15-25(査読有り) を掲載できたことにより、アジアの社会科教育学研究にインパクトを与えたと考えている。さらに、学会発表として、研究目標・計画に基づいて、5回の研究大会での発表を行うことができた。そして、愛知東邦大学地域創造研究所共同研究「教員養成における主体的・対話的で深い学びの実践研究」部会の主査として、学内研究助成を受けて実践研究を深めることができた。この場を借りて感謝申し上げたい。今後も継続して研究活動を積み重ねていきたい。

### III 大学運営

#### ○目標・計画

（目標）各分掌の担当に責任をもち、協力して大学運営に当たる。

（計画）地域連携委員会委員、入試問題作成委員会委員、教職支援センター運営委員、小学校教育実習担当など、与えられた仕事に責任をもち取り組んでいきたい。

#### ○学内委員等

教職支援センター運営委員、地域連携委員会委員、入試問題作成委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員、スポーツ大会提案者、教育学部ゼミ分け担当、サービス・ラーニングリーダー

## ○自己評価

大学運営に関する自己評価として、各分掌においてそれぞれの役割を果たすことができたことがある。教職支援センターの運営委員として、小学校教育実習、小学校教員採用受験のサポートに取り組み、教職を志望する学生を支援することができた。地域連携委員として、地域と連携した教育活動の準備運営を行うことができた。入試問題作成委員会では、与えられた役割分担に責任をもって取り組むことができた。ゼミ分け総合・専門演習担当として、ゼミ分けの希望調査、集約を行った。スポーツ大会提案者として、1・2年生のスポーツ大会の提案・運営に関わった。サービス・ラーニングリーダーとして、サービス・ラーニング委員会を開催し、授業運営をスムーズに行うことができた。

## IV 社会貢献

### ○目標・計画

- (目標) 研究成果を教育活動・社会活動に活かすことができるよう地域の諸機関との連携を深め、協力・協働した取り組みを進める。
- (計画) 地域の教育諸機関と連携した教員と保育士の養成におけるサービス・ラーニングの実践を、積極的に推進する。授業において、近隣小学校や近隣保育園、近隣幼稚園、劇団うりんこなどの名東区を中心とした地域諸機関と連携した教育・研究活動を進める。また、演習活動を通じて、サービス・ラーニングに積極的に参加し、理論と実践の往還を図る。

### ○学会活動等

全国社会科教育学会会員（平成11年4月～）                      理事（平成29年4月～）  
愛知教育大学歴史学会会員（平成12年4月～）              常任委員（平成12年4月～）  
日本生活科・総合的学習学会会員（平成12年4月～）        会計監査（平成29年6月～）

### ○地域連携・社会貢献等

- ・大府市特別支援教育研究部会夏季研修会 講師（2019年8月2日）
- ・第26回東海ブロックカリキュラム編成講座分科会総論 講師（2019年8月20日）
- ・教員免許更新講習「発達障害の子どもと保護者の対応」講師（2019年8月26日）
- ・第69次愛知県教育研究集会「教育条件整備」分科会助言者（2019年10月26日）
- ・豊橋市小中学校 総合的な学習 研究部研究大会 講師, 助言・指導（2019年12月18日）

### ○自己評価

社会貢献に関する自己評価として、地域の教育諸機関と連携した教員と保育士の養成におけるサービス・ラーニングの実践を、積極的に推進することができた。また、授業において、近隣小学校や近隣保育園、近隣幼稚園、劇団うりんこなどの名東区を中心とした地域諸機関と連携した教育・研究活動を進めることができた。さらに、演習活動を通じて、サービス・ラーニングに積極的に参加し、理論と実践の往還を図ることができた。そして、学外の様々な研究会に講師や助言者として参加することができた。今後も、様々な機会を捉えて、社会貢献活動を行っていきたい。

## V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

学外研究として、研究目標・計画に基づいて、四本の査読付き論文を刊行できたことは大きな成果である。とりわけ、国際学術雑誌に、2本の査読付き論文  
Katsuhisa Shirai : Characteristics of Industrial Learning in Japanese Elementary School  
Social Studies : In the case of the fifth grade “Showdown, Which Manufacturing Show!”  
*The Indonesian Journal of Social Studies* Vol.2(2), 2019年12月, pp. 102 - 113 (査読有り)  
Katsuhisa Shirai : Lesson Study to Create Social Studies Lesson Plans in Japan: The  
Case of “Logic of Triple-Stacking” at Shinshiro Elementary School. *Journal of Social Studies  
Education in Asia*, Vol.8 (2019), 2019年10月 pp.15-25(査読有り) を掲載できたことにより、アジアの社会科教育学研究にインパクトを与えたと考える。

## VI 総括

大学教員として6年目の生活を迎え、落ち着いた環境の中で教育活動・研究活動・社会貢献活動を行うことができた。これも教職員の皆様のご支援・ご協力の賜物だと考える。

教育面では、とりわけ、実習科目に重点的に取り組んだことがある。「教育実習Ⅱ(小学校)」「教育実習Ⅱ事前事後指導」の授業において、小学校教育実習関係の連絡・調整を意識的に取り組み、学生の小学校教実習経験をサポートできた。

「サービス・ラーニング実習Ⅰ・Ⅱ」の授業において、地域や学内外での様々な行事や活動に、学生を積極的に参加させることができた。

また、研究面では、個人研究として愛知東邦大学出版助成を受けて、博士論文研究を単著『戦後日本の郷土教育実践に関する歴史的研究—生活綴方とフィールド・ワークの結びつき—』唯学書房,2020年3月として出版できたことが大きな成果である。この場を借りて感謝申し上げたい。

大学運営面においては、とりわけ、教職支援センターの運営委員として、小学校教育実習、小学校教員採用受験のサポートに取り組み、教職を志望する学生を支援することができた。

そして、社会貢献面においては、「サービス・ラーニング」を通じた地域諸機関との連携や、学内外での講師など様々な活動を行うことができた。

次年度も、小学校教育実習担当、教育実習Ⅱ事前事後指導担当、教職実践演習(幼・小)担当、教職支援センター運営委員などの活動に、意欲的に取り組み、教職員の方々と協働し、地域諸機関との連携を深めながら、研究活動、教育活動、社会貢献に積極的に取り組んでいきたい。

以上